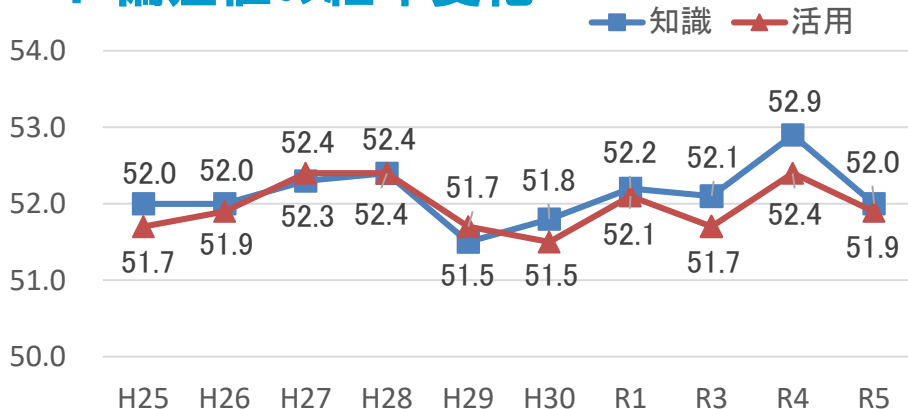


※目標値・・・学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童・生徒の割合を示したもの。

結果のポイント

1 偏差値の経年変化



○知識と活用ともに偏差値50を上回っている。

3 領域別の結果

領域	県正答率	全国正答率	目標値
数と計算	71.0	66.4	66.8
図形	62.1	57.0	60.6
変化と関係	74.3	71.1	68.0
データの活用	63.4	58.5	60.0

○全ての領域において、全国正答率を上回っている。

2 観点別の結果

観点	県正答率	全国正答率	目標値
知識・技能	72.1	67.2	68.7
思考・判断・表現	57.9	54.0	55.0
主体的に学習に取り組む態度	58.1	51.8	54.4

○全ての観点において、全国正答率を上回っている。

4 解答形式別の結果

解答形式	県正答率	全国正答率	目標値
選択	70.7	66.5	67.9
短答	68.7	63.7	65.0
記述	42.3	37.4	37.5

○全ての解答形式において、全国正答率を上回っている。

■ つまづきが見られた問題

大問11 県正答率40.8% 全国正答率39.7%

【ねらい】 およその面積を選ぶことができる。

【問題の概要】 はがきのおよその面積を選ぶ。(選択)

【正答】 150cm² 【誤答例】 15cm²(**県反応率51.7%**)

◆ 指導のポイント

○面積の求め方を理解できるようにするとともに、面積や単位についての感覚を身に付けることができるように指導することが大切である。

★ 指導の具体例

身の周りの具体物を調べる活動を取り入れる。

(例) 折り紙、教科書、机の面、花壇、教室 等

★面積の見当を付けることは、長さの見当を付けることよりも難しい。そのため、まずは調べる対象の縦と横の長さの見当を付ける場面を設定し、その上でおよその面積を求める学習活動を行う。

★その際、調べる対象の大きさに応じて、単位間の関係に注意しながら、適切な単位を用いることができているかを重視する。

大問18(3) 県正答率36.2% 県無回答率22.0%

【ねらい】 切り捨てて計算した結果が、目的に合う理由を説明することができる。

【問題の概要】

購入する品物の合計が5000円以上になるかを概数で考える問題。およその金額(切り捨てて概数にした金額)の合計が、5000円以上であれば、実際のコличествоを計算しなくても、合計は5000円以上になる理由を説明する。(記述)

【正答例】

実際の金額を切り捨てて計算して、合計が5000円以上になっているから。

【誤答例】

概数で計算しているから。(正答以外の解答41.9%)

◆ 指導のポイント

○目的に合った数の処理の仕方を考えることができるようにする。

★ 指導の具体例

★数の大きさを見積もる学習は、日常の生活場面と関連付けることが重要である。

★その際、切り上げ、切り捨て、四捨五入の方法を習得させるとともに、目的に応じた使い分けができるようにすることが大切である。